

# 令和4年6月遠野市議会定例会会議録（第4号）

令和4年6月15日（水曜日）

次 長 千 葉 芳 治 君  
主 査 多 田 倫 久 君  
主 査 松 本 康 子 君

## 議事日程 第4号

令和4年6月15日（水曜日）午前10時開議

第1 一般質問

第2 議案第37号 令和4年度遠野市一般会計  
補正予算（第2号）

## 説明のため出席した者

市 長 多 田 一 彦 君  
副 市 長 鈴 木 惣 喜 君  
総務企画部長 鈴 木 英 呂 君  
総務企画部経営管理担当部長  
兼情報推進課長 佐々木 啓 君  
兼新型コロナウイルス対策室長  
健康福祉部長兼健康福祉の里所長  
兼地域包括支援センター所長 菊 池 寿 君  
健康福祉部保健医療担当部長  
兼新型コロナウイルス接種対策室長 佐々木 一 富 君  
産 業 部 長 阿 部 順 郎 君  
環境整備部長 奥 寺 国 博 君  
会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長 新 田 順 子 君  
消防本部消防長 千 田 一 志 君  
市民センター所長 海 老 寿 子 君  
教 育 長 佐々木 一 人 君  
教育委員会事務局教育部長 伊 藤 貴 行 君  
選挙管理委員会委員長 菅 沼 隆 子 君  
代表監査委員 多 田 博 子 君  
農業委員会会長 千 葉 勝 義 君

## 本日の会議に付した事件

- 1 日程第1 一般質問（新田勝見議員）
- 2 日程第2 議案第37号 令和4年度遠野市  
一般会計補正予算（第2号）  
（提案理由の説明、質疑）

## 出席議員（18名）

- 1 番 小 松 正 真 君
- 2 番 佐々木 恵美子 君
- 3 番 菊 池 浩 士 君
- 4 番 佐々木 敦 緒 君
- 5 番 佐々木 僚 平 君
- 6 番 小 林 立 栄 君
- 7 番 菊 池 美 也 君
- 8 番 萩 野 幸 弘 君
- 9 番 瀧 本 孝 一 君
- 10 番 多 田 勉 君
- 11 番 菊 池 由 紀 夫 君
- 12 番 菊 池 巳 喜 男 君
- 13 番 照 井 文 雄 君
- 14 番 荒 川 栄 悦 君
- 15 番 安 部 重 幸 君
- 16 番 新 田 勝 見 君
- 17 番 佐々木 大 三 郎 君
- 18 番 浅 沼 幸 雄 君

## 午前10時00分 開議

○議長（浅沼幸雄君） おはようございます。  
これより本日の会議を開きます。

## 日程第1 一般質問

○議長（浅沼幸雄君） これより本日の議事日程に入ります。

日程第1、一般質問を行います。

順次質問を許します。16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） おはようございます。  
一般質問の最後となります。よろしくお願いたします。

ロシア軍がウクライナに侵攻して100日が過ぎたようです。多くの尊い人命が失われ、家族

## 欠席議員

なし

## 事務局職員出席者

事務局 長 朝 倉 宏 孝 君

もばらばらになり、住宅そして建物が破壊され、また広大な農地が荒らされています。その攻撃は止むことはありません。一刻も早く停戦してほしい、誰もが思うことだと思います。世界の平和と安全を目的としている国連の役割も機能していないのが現状であります。ロシアのウクライナ侵攻によって、世界で、日本で、大きな影響を受けています。避難民の受け入れ、物価の高騰、物価の高騰は特に原油、食料、木材の不足等々大きいものがあります。

世界の国々は、輸入、輸出は不可欠なものでありますが、まず燃料に影響、つまり物資の流通がままならず、全てにおいて物価高となっております。日本においても、そして岩手遠野においても大きな影響となっております。日本政府は、幾らかでも国民の負担が軽減されるように、そのような対策を講じていると思いますが、はるかにそれを飛び越えて大きな負担に影響を受けています。コロナ禍において戦争と二重の重い負担に強いられています。

改めて世界はつながっている、人も土地も海も。しかし人々の考えはある意味みんな違う。求めているのは人命の尊重と世界平和だと私は思っています。

それでは通告に従いまして、一般質問を行います。今回私はテーマを2つ設けました。1つ目は永遠の日本のふるさと遠野のまちづくり。そして、2つ目は医師の確保についてであります。市長に対しては一问一答方式にてお伺いいたします。

最初のテーマは、永遠の日本のふるさと遠野のまちづくりについてであります。

遠野三山をはじめ、豊かな自然の中での生活は癒しにもつながっております。熊、鹿、イノシシも生存しています。私は、大事なことは自分たちの住んでいるところを、まずは住みやすいところになりたいとそう思う気持ちを持つということが必要だと思っています。遠野市は永遠の日本のふるさと遠野を標榜しています。現状で、満足な市民もたくさんいることでしょう。また、不満や不安を持っている人もいます。

う。我々地方議会人としては、さらなる上を目指すのは当然でございます。市民の安心安全な生活とともに、地域づくりが重要な要素であると、私は、思っております。

市では、小さな拠点づくりの下、地区センターの指定管理制度、行政区の合併、消防団の合併として進め交付金対応しています、この3年間コロナの感染という未曾有の事態において、住民議論を十分ではない中、行政は進めてきました。

市長は、これからは大事で振り返ることはないというような話も聞いた覚えもあります。私は今後の地域づくりは行政と地域住民でつくるものと思っておりますが、このことについては行政主導で作られたものであります。地域の温度差もあり十分な話もできなかったのではないかとというふうに私は反省しております。

市長就任から1年もたっていませんが、地域づくりのプロセスについてどう考えておられるのか、まず、お伺いいたします。

**○議長（浅沼幸雄君）** 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

**○市長（多田一彦君）** おはようございます。

小さな拠点、地区センターですね。地区センターを中心とした地域づくりですけれども、これは地域の最重要拠点として考えております。今、議員振り返ることはないというふうにおっしゃいましたけれども、スタートしましたので進化していきましよう。その進化の方向性の中で、過去にいいところはそこも取り入れながらいくということで、そのシステムについて振り返っていくということはない部分があります、スタートしましたから。ですけれどもいろんなことは、もう360度上下可能性を持たせながら、その地域、地域の特性を生かしていきたいと思っております。それが基本的な考えてございます。

**○議長（浅沼幸雄君）** 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

**○16番（新田勝見君）** 振り返ることも当然必要というふうに思って、昨日から聞いておりました。

そこで、私は今後の生活の中で、これは地域づくりの中ですけれども、自家用車が使うことができない状態になったときのことを考えると不安になります。老人世帯が増えていて自分が思うように動けない、つまり交通弱者になるということです。

ざいのほうに住んでいる方にとっては足が大事です。今回選挙の投票所も少なくなる、あるいは税の申告もとびあに集中する、そして健康診断や検診も中央で行うなど大変な負担となっております。

そこでこの前の遠野テレビニュース、生活交通のために動き出した地域が放映されました。私は、ああこれだなというふうに思っていました。しかしどこの地区でも同じように取り組むことができるかというところではない。小さな拠点づくりの中で、私はスタートしている部分、スタートしない部分いろいろありますけれども、高齢化の中では、私はこの足の問題が一番だと思っていますし、今行われている指定管理、その中に管理の条件として、条件として地域の足の確保、そういったものに取り組むことができるのではないかというふうに思いますけれども、市長のお考えを伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） おっしゃるとおり地域交通ってのは、本当にこれから重要になっていきます。これは、いろんなやり方があると思うんです、地域によってその地理的な条件も違うし、個性がこれから出ていくと思いますが、これは本当にその地域の重要な課題になっていくと思います。ですから市も全力を挙げて考えていくべきだし、それはもちろん地域と一緒に考えていくべきだと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 新しく市長になって3回目ですか、議会。非常に私たち議員にとっても、これは考え方を改めなきゃならない。と言いますのは、いろんな質問しても、地域と一緒に

にやりましょう、それはそのとおりなんですけれども、具体性ってありますか、例えば今の生活交通の話しても、前回は私質問いたしました。ロボットと申しますか、そういった交通網というような話も市長からされましたけれども、やはり私は、今々の課題なんです、これが。今年も、私知っています、免許返納した人。そして自動車学校に行って適正に当てはまらないというようなことで止めなきゃならない、そういったところが身近に見えてまいります。

ですから、先ほど言ったようにその地区で必ずという語弊があるかもしれませんが、例えば土淵町のまちづくりのような形でスタートした、そういうところが、温度差なり地域格差のないような形で進める、ですから、私はこの指定管理の中にも、こういったことをきちんとやってくださいということが必要ではないかということで質問していますので、再度答弁願います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 土淵町でスタートしたように、上郷町でも買物とか、様々な活動が出ています。そして、さらにこうしようかっていうプランを立てはじめている地域もあります。これは、私、重要だと思います。全てが行政依存であってはこれからの行政、地域っていうのはやっていけないです。ですから、これ我慢しながらでも、その自主的なプランをある程度誘導するってことは必要なのは議員もお分かりだと思います。その上で、今ある地域交通、遠野市の中枢の交通、これはバスとタクシーによるオンデマンドとか、そういうことです。これの見直しをしていかなければいけないです。これもこのままいかないです、バス停まで歩いていけないって状態がきているってことですよ。だとすると、極端な話するとバス停いらんないじゃないかと、バス停いらなくてそこにそれぞれの地域で、オンデマンドみたいな形なんですけれども、もうちょっと網の目の細かい交通が必要じゃないかと思っています。これをじゃあ今の

バスの路線をどういうふうにしていくのかわかることが、まず1つ課題になりますね。それとこれからデジタル田園都市構想というものが進んでいくと、また小さな拠点の政策の中では、小さな拠点と小さな拠点をつなぐ交通っていうのも出てきます。そうすると小さな拠点として、議員のお住まい附馬牛があるとします、これと例えば上郷があるとします。そうすると、それをつなぐ交通網ってどうふうにするのっていうことになってきます。こういったものをつくれっていくようになってくわけです政策的に。

それともう一つは、その例えば、ぽつんとこう離れて独立してある集落があります。その交通はどうふうにするのか、そうするとそれ一緒ではなくて、その交通はそこに1人、係りの人が地域の中において、これをある程度収入にしながら、使う人もお金を払い、市もお金を用意し、用を足せるようにする。これはどこまでつないできてどういうふうにするのか、こういうこと必要になります。

そうすると、その条件、条件でいろんなことが違が出てきたり、共通している部分が出てくるわけです。運転手さんをどうする、その交通網の管理をどうするかっていう、いろんなこと考えなきゃいけないです。これを今までやってきていけば、その延長で様々な手段を打てるんですけども、今考え出していっているような状況です。これを、私しっかりつくりたいと思っています。そのためには、じゃあ予算をどうする、遠野広いですよ、それを持ってくるとすれば膨大な、満遍なくいくとすればお金がかかる、じゃこの予算どうする、じゃあこれは自動運転特区っていうのをとって、その中でやれる部分、小さな拠点のつなぎという部分でやれる部分、デジタル田園都市構想の中でやれていく部分、それと、今までの早池峰バス、それとタクシーの委託、これでやれる部分出てきます。この辺もプランの中ではバラバラにして考えていかなければいけないと思います。これ、どうやってその地域の特性を生かしながらやっていくか、それをまずまとめるイメージをつく

っていくために、私は地域で考えてくださいと言っています。それを集めて集約して計画を立てていかなければ、市としてはいけないです。それがまず大きくやっていきたい交通。この中ではタクシーっていうのは重要だと思います。その配車のシステム、ルート、それと営業、この部分で大事だと思います。タクシー業者さんともコミュニケーション取りながらどうやってつくっていくかってことになります。これらが一つ、構想と中です。

もう一つは今どうするかということですね、今どうするかっていうところを考えると、即効性のあるものとしては、とりあえず今の法制度ルールの中でオンデマンド交通を増やす、例えば、こういうことだと思います。それはどういうふうな地域をどうふうを増やしていけばいいかと。この地域事情があって、全部1回にやるのか、モデル地区をつくってはじめるのか、この辺の選択も出てくると思います。

だから具体性があるかないかっていう以前に、計画に対する具体性、要するに計画をしっかりとつくった中で、具体的にどういうふうにしてやっていくかっていうところをやらなければいけないっていうに考えています。

だから、恐らく議員は地域のことをいろんなことをやられているので、いろんなその日常の日々の進化が、変化が目に入ってくる、耳に入ってくる、問題が目の前にあるどうしようと。分かります、私もそう思います。そこ明日どうするっていうところをやれと言っているのかなと思います。明日どうにかしたいです。明日、なるべく明日を早くするために進めていかなきゃいけないですから、地域もそのところを真剣にうちの交通はこういうふうであればいいねっていうことを考えて欲しい。それ集めて、みんなでこういうふうに、この地域はこういうふうな交通、この地域はこのような交通、自分たちでもこういう部分はできますよとかっていう部分をつくって整理していかないと、遠野全体としてはできていかないと。思います。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） よく分かりましたけれども、この生活交通、地域交通については、何年もかけて私も委員会なり、あるいは一般質問で行ってまいりました。そして地域ごととなる温度差が出る地域差が出てくる。私はこの地域交通ってというのは、まとまる人は一ついいんだよ、土淵の人が附馬牛の人乗せて来てもいいんだよ、人がいないときは青笹町の人が来てやってもいいんだよと、そういうネットワークっていうんですかね、私はそれがベストと思うんですよ。それに公共交通の業者のさっき言ったタクシー会社とか、そういった方たちも入れてベストなものをつくっていくということが大事だと思います。ですから、今までこういっちゃなんですけれども、行政主導でこれやれあれやれでやってきたんですけども、今いざ、市長のような人が変わってくるといって、これは地域住民も戸惑いもかなりあると思いますよ。どういうやり方でやったら今度遠野よくなるんだろうということをこれからじっくり考えていかなければと思います。

次の質問ですが、今農村の抱える課題は山積、水稲にしても米価の下落、資材等の高騰、水稲活用の直接支払いの交付金の見直しなど生産者の意欲をそぐものであり、畜産においても和牛子牛の価格の下落、飼料の値上げ、どれもこれも農家の意欲をそぐものであります。

先日、私は農村RMOの話聞く機会がありましたが、現状として人口減少や高齢化が急速に進行、このままでは農用地の維持、管理、農業生産活動の継続が困難となっております。そこで、このRMOは小学校単位での範囲において複数集落を対象として農用地の保全や地域資源を活用した経済活動、生産支援活動と3つの柱として行うとインターネットでしゃべりましたけれども、これが農村RMOを形として地域運営組織として活動するようにするとあります。

簡単に言えば、地域づくり、今の小さな拠点もそうですけどもプラス農業部門が入るようなものでしょうか。私は以前から地区センターに

おいて中山間直接支払事務や多面的機能支払事務をやるようにしたらと、農業者の所得向上にもつながると発言しております。また、仮に営農組合組織も高齢化によって経理も大変な重荷となってきています。

理想論ではありますが、まさに地域一体となった地域づくりがRMOとあります。RMOについて、市長のお考えを伺いたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まず、ちょっとさっき言い忘れたことあるんですけど、その地域交通は地域の人が運営してくださいってことじゃないです、私が言っているのは、地域、地域によって有効な交通網とシステムとはどういうものか、こんな制度だったらいいなってことをまず考えるってことなんです。その結果タクシー会社とかいろんな方が動くので、それこそ土淵の人が来て、達曾部のことやってもいいとかそういうことです。そのシステムをしっかり構築、交通網とか、やり方を構築すれば、今携帯電話でも無線でもスマホでいろいろできるわけですから、様々対応できる、そのこういう形、こういう格好でやりましょうっていうのをつくりたいということなんです。そうすると、そこにはまってくるので、タクシー会社のその無線のシステムとかがっていうのも有効になってくるし、いろんな形ができる、車もワゴン車の方がいいとかですね、そう形が出てきていくので、その中で、地域の中である意味ビジネスになる部分も出てくるかもしれないです、少しですね。ビジネスになるのは、もうけるって意味じゃないですよ、それで人を1人入れるということですね。

地域の中でRMOにつながっておきますこれ。地域の中で地域づくりは、私あの数年前もいろんな挑戦したことがありますして、地域づくりが仕事になっていかないともうやれないよという話をしていました。これ要するにRMOの考え方です。ただ、前回の議会だったでしょうかね、巳喜男議員からRMOの農村RMOの話が出ま

したですよ、定例議会で。これはちょうど小さな拠点のスタートと重なっているところです。いつもちょっとこう今回もデジタル田園都市構想でちょっと早めにいろいろ出てくるので、あのとき、これなんだけどタイミングの問題ですよ、小さな拠点をスタートしようと言っているところに、今RMOをやりましようってかぶせていくと、まずこれもう大変なる、もうだめだ。そうすると小さな拠点に関しても、拒否反応が先に来るわけです。これそうですよね、大変なっていくという意味からすると、これはタイミングだなというふうに私は考えて、まず小さな拠点のスタートというお話をしました。覚えていらっしゃると思うんですけど。これはRMOっていうのは、一つチャンスなんです、チャンスだけでも政府はこうしなければ地域はやっていけないよっていうようなことの結論なんですよね。つまり地域の中に小さい産業を起こしていきなさいよと、地域と産業と人、それを運営していく人が一体となっていくから、その地域のサポートもできるし地域経営ができるというようなことで。農業もそういう集団的な最終的には地域っていうふうに政府のほうは考えているのかもしれないけれども、そういう単位でやってかないとできないよと。特に中山間の話は議員時々おっしゃいますけれどもそこに対応するもの、これを今までのシステムとは違って、そこでお金を生んだり、様々な活動の中でやっていく、その経営者が地域を引っ張ってくるみたいなイメージのところのものです。これは非常にその中で財政的なその補助とか様々な活動につながるものでもあるし法人化にもつながりますね。いろんな法人化もあります。これは、私は有効に使えるだろうと思っています。ただ今でも多分そこにRMOをやりましようっていうと、これ以上ちょっと事務量が増えるよというような感覚をお持ちになる例えば地域もあると思います。ですからこれも自主的に出てこないといけないんですけど、やっていく中では、これやりたいなっていうような話が出てくるはずですよ。恐らくそのときに有効にやれ

るようにお手伝いするということが必要だと思っています。

もう一つはRMOが必ずしも地域だけでなくっていいってことです。例えば何かの施設があって、これを私たちの地域が農業も絡めながらこの地域の施設、ここにあるのをちょっと経営したいというようなことでも使えていくものです。ですからその使い方は多岐にわたっていくと思います。その中で一つその地域のケアっていうことをしなさいっていう、そこにつなげてくださいよっていうような考え方ですね。私は、これは一つのモデル成功例を早くつくっていくと皆さんが意外とこれはいけるんだと、そして人も増やせると。例えば、中山間、その他の事務をやる、多分いろいろ事務局やっている方って多分いろいろ持っているんですよ、これ大変ですよ。この時に、1人、2人事務の人がいたらいいなというときに、こういう事業をやって、何らかの営利事業といいますか地域産業を起こしていく中でやっていくと、そこに人も雇用できるし、例えばそこに対して補助金、助成金も人の分が出てくるとかってシステム出てくるので、人を増やせるなど。事業ごとに人ってこうあるじゃないですか、そういう意味でも有効だろうなというふうに考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 勉強されている市長ですから否定はしませんから、これは地域づくりとともに私も興味は持ちましたから、できるのであればやっていければなという思いもあります。

次に、地域づくりの人材の育成について質問いたします。小さな拠点づくり、今言ったRMO、どちらにしても地域に密着しながらさらに若いしかもノウハウの持った人にリードしてもらうのが必要ではないでしょうか。

市長の考えをお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） RMOはRMO、小さ

な拠点は小さな拠点として、別になるところもあるだろうし一緒にあるところもあるだろうし、いろんな形があるだろうなど。私は、できればその、今これこれから人材の話をするわけですけども、新田議員のようなこの地域のずっと見てきた方と、いやいやこのRMOはこういうふうに使えばいいんじゃないとか、その議員の考えを聞きながら、いやここの部分はどうすんだとかこうすんだとかって、こうテーブルの上で聞きながらちょっと話をしあって、その現実と重ねながらこう考えていきたい課題だなというふうに思っています。ですから、そのこうやったからこう、聞いたからこう、議会で私が答えたからこうやるもんだではなくて、それをつくっていききたいなど。いろんな事情を鑑みながらそういう課題。いきなりこのふるさと村を、俺んとこのRMOでちょっとやりたいなっていう話だって出てくる可能性もあるわけですよ。あれ農業重ねているとかいうこともあります。そうするとそのRMOとか小さな拠点というのが、そこに運営するリーダーが出てくるわけです。そのリーダーっていうのは、これから地域を牽引するリーダーになっていく可能性は大きいというふうに思います。一つ重要なことは、地域のリーダーってまず例えば事務とか働く人だったら地域以外から雇用するってこともあるんですけど、地域のリーダーとやっぱり地域に住んでいる人がリーダーになってく、もしかそこに住んじゃう人もいるかもしれませんけれど。それをどういうふうにしてつくっていくのか。地域が育てるっていうのがやっぱり一番いいと思うんですよね。地域が育てるんだけど、その地域に仕事とかいろんな力とか、使えるお金もないと育てにくいだろうという部分もあります。もう一つはその地域が育てるっていうことで、ちょっと私が思ったのは、例えばここにいらっしゃる方、皆さん地域のリーダー、若いときからリーダーだったと思うんです。新田議員はどうやってその地域にこうふうにリーダーになるように育てられたのかな、恐らく若いときから「ちょっとおめ、こつ」とか、いろ

んな形で引っ張り込まれてこうやってきたのか、自分から入っていったのかとかってあるんですよ。もう1回その自分がどういうふうにしてその地域のリーダーとなって、こうやって今議員さんという職をやられるようになっていらっしゃる方が、どうやってその地域の中で、世の中に押し出されたんだろうかっていうところをちょっと1回こう話を聞かせてもらいたいですね、皆さんから。俺の若いときはこうでこうやって、こういう人がいて、おめ、こうやれって言われたからなんとなく俺がこうリーダーになっていたとか。農業を引っ張っていったらそれでリーダーになってきたとか、いろいろあると思うんです。そこをもう1回思いだして、そのリーダーの育成というものをどうしたらできるかってことを考えなきゃいけないなと思います。やれって言われたって仕事でできないですよ。その資質とか裁量とかってのはすごい大きい、それをどうやってその地域で育てられたのかなってのはもうすごく知りたいことです。まずそこから辺の勉強から、振り返りからはじめていったらいいかなというふうに思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 地域のリーダー、これは黙っていても出てきません。まあ私の場合だと2時間ぐらいかかるんでここではできませんけれども、やはりその当時というのは、やっぱり婦人会と青年会ですよ、地域のリーダーになっているのは。まずそれに入っているいろいろと鍛えられると。今、その青年会もなかなか目に見えない、今のそれこそ地区センターごとに青年団があって青年会があってその、文化部門やったり、体育部門やったりして、そういった中で、その当時は、その中のリーダーっていうのはみんな市の職員でした。会長とか市の職員が多かったんです。そういうのと一緒になってやることによって、私もそういう話を受けたりやって、私も会長までやりましたけれども、そういう何かそういうきっかけがあればもちろんそうなると思いますし、誰か言ったように、青

少年ホームなりそういった中で、きちんとね何回もやるってことは育成になるのではないかなというふうに思っているところでございます。

そこで次の質問に移りますけれども、永遠の日本のふるさと遠野がこのままいくと、このまま行くとですよ、それだけ何かしなければなりませんけれども、このままいくと田畑は荒れ誰も住まない地域になるのではないかと思うことがあります。

市長の考える永遠の日本のふるさととは、どう写されているのか伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私は、役所に入ってから、その後ちょっと東京に行って来たので、本当に遠野は私の永遠のふるさとでした。だからもう、大事な仕事に行くときは遠野まつりのその録音した音を聞きながら車を運転してその場所に行くと、それで鼓舞して負けないぞと、この何て言いますか、遠野のアイデンティティを吸収しながら行きました。これが私の永遠のふるさとです。でも、何か永遠のふるさとなのか、これも当たり前前に遠野はもういいんだ、もう日本の中で遠野はいいんだっていう、すばらしいんだっていうところをかなり染み込んでくる部分もあるので、次の形、それこそデジタル田園都市っていう中に、どういうふうに、その田畑とかっていう話がありましたから、それを組み込んでいって、さらに集約するのか、その作付とかいろんな配置、畑、田んぼ、牧場こういったものを、例えば等高線ではないんですけども、山と畑の間に牧場があるとか、いろんなその考え方を出していって、再度その有効活用を考えていかないといけないのかなというふうに思っています。

再集約が必要な部分はかなりあります。農業、例えばホップだっってそうですよね、やっぱりもうちょっと合理的に集約してやらないと、これから先いけないし、それを伸ばさないでそのホップの乾燥施設を何億かけていくのかとってことになります。やっぱり最低でも45トンから60

トンぐらいの収量を上げて、もうよし、いきましよう日本一、それでその施設を新しく最新にしてくとかというような目標を持ってやってきたいと私は思います。どうするどうするこれっていうふうな形で引きながらやりたくないっていうのは私の気持ちです。遠野もそういうふうな向き合い方でいけるようにしたいなど。

そうすると、今例えば議員、今、さきにおっしゃいましたが、ウクライナの問題あります。飼料高騰しています。飼料が高騰しているわりには牛の値段が下がったっていう話、これももうおかしな話で上がっていてももらいたいところですよ。でも経済状態がよくないから下がるんだと思うんですけど、この辺を飼料はどういうふうにして、飼料が5万上がるんだったら、今まで国産の飼料は例えば輸入飼料よりも3万高かったとするじゃないですか、単位は別として、それだったら5万高い輸入のものを買うんだったら3万高い国産のものを作ったほうがいいんじゃないとか、いろいろ考えていく必要があると思うんです。入ってこない時期、これ今ウクライナの問題がいつまでどういうふうになってくるのか、ロシアとウクライナだけで済むのか、もっともっと世界の経済に打撃を与えていくのかっていうこと考えたら、もう読めないです、まだ。じゃそれをじゃあこの状態だから、輸入高くなって困った、じゃあ補助金増やそうとか、これだけやっても進歩していかないです。だったらそれが影響されないような形を少々高くてもいいから遠野でこの部分作っていかうとかかそういうこと考えなきゃいけない時期だと思います。それと個人個人で頑張ってきて、農業頑張ってきた方、後継者がいない、労力不足ってことを言われます。そうすると共同でやらなきゃいけないって部分が出てきます。そしたら私が一番こう遠野の例えば畜産の話昨日も出ましたんでお話しすると、キャトルセンターありますよね、キャトルセンター、私これからの時代では、すごくいい施設だと思っています。何回も私見に行っているんですけど、あれの収支的にマイナスな部分っていうの



はもう分かるわけですよ。その預託料の問題とかあるけども、それ以外の収支の部分っていうのは悪くないんですよ。だとするとあれをモデルにして民間で運営する部分も起きてくると、私畜産もこれ遠野としては企業的にやれる部分になるなというふうに思っています。そういういいところをどんどん、市内にあるいいものも、いい人もいるので集約して、例えば起業化するとかってしてそこに投資する方法を市も一緒に考えてやっていくとかっていうふうに構造を変えてかなきゃいけない部分を否定できないです、時代的に。このところを一回考えるしかない。それと例えば、牧場も考えているんですけど、中洞牧場ってありますよね、ちょっと固有名詞出ていますけども有名な牧場なので、中洞さん遠野にも何回もいらっしゃるんですけど、あそこで、それこそあまり左右されない、その畜産を、酪農とかやっていて六次産業もやっていて、あそこに入ってくる若い人も多い。遠野はこれだけその自然地理的ないい条件があるのだから、遠野でできないかそういうことを。例えばなかほら牧場に人いっぱい来るそうだから中洞さんのその分店じゃないですけど分場ができて、それを指導的にしてもらって、そこに遠野の人たちが、若者が興味を持って関わって行って、遠野のスタイルができないかとかいろいろ考えています。

こういうことを、私、実際素人なわけですから、いろんな知識のある皆さんと、こうざっくばらんに話をしていきたいんですよ。いやいや市長よ、お前そういうふうに簡単に言うけど、それは簡単にいかねえ部分なんだ、ここのところどうすんだ。ここ、こういう問題あるんだって、そういうことを今、どんどんみんなで出し合って、それをどうやって解決するかっていうのをやって、次の時代に向き合わなきゃいけないときが、私は今だと思っています。で、座談会ちょっと長くなってすみませんね。座談会って…

○議長（浅沼幸雄君） 答弁をまとめてください。限られた時間でございますので。

○市長（多田一彦君） はい、すみません。そ

のように思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 今の市長の話は、長々とありますけれども、やはり具体的なものも出していってもらいたいし、それから話合い、井戸端会議のみならず分野ごとのきちんとした話合い。やはり、この永遠の日本のふるさと遠野。やはり私は第一次産業の一番それを持っているものだと思っています。

これが、今、木材が見直されてきていますけれども、逆に、いろんなものが上がっている中で米だけは上がらないといわれております。これも、見渡す限り田んぼが多いわけですけども、それが一番悩んでいるところでございますし、本当の意味の日本のふるさと遠野をつくる。これを再度、議会と当局がもちろん一緒になって、議論しなければなりませんけれども、議場のみならずそういったところで話合いできればなどというふうに思うところでございます。

それでは、次のテーマに移ります。

医師確保についてであります。

5月17日の日報紙に、SMC遠野到新工場、部品供給21社入居とあり、2025年には本格稼働するという報道がありました。地元を含め430人程度の雇用の見込み。遠野エリアに一大部品供給団地を構築するようであります。

市にとっては喜ばしいことであり、若者の定住、あるいは定着へと夢は広がってきます。

市の人口推移を見ると、あと10年ぐらいで2万人を切るのではないかというふうに思う中にあって、若者の定住、この地域において最も大事なことだと思います。なぜなら、子どもたちの減少が大きいと私は思っています。

将来の遠野市を引っ張っていく若者の力が必要であります。そのためには、子育て環境の整備が急務であり、いかにして安定した子育てができるか、これが大切なことになってきます。

そこで、テーマに戻りますが、子育てするなら遠野という言葉、よく耳にしますが、産婦人科がないということは致命的なことでもあります。

これも市民に我々も指摘されております。

後期5カ年計画には、少子化の進展等により、妊産婦や母子の取り巻く環境が厳しくなっている。市は、ねっと・ゆりかご助産院や包括支援をすることによって、産前産後のケアをし、将来的には医師の確保も視野に入れながら、というふうになっております。

問題は、遠野で子どもを産むことができないってことになります。婦人科だけでは子どもは産めないそうです。産婦人科じゃないと産めない。そこで、市では産むことができない。昔は個人の医院でも、私の知っている限り3か所ぐらいは個人の産婦人科があって、里帰り出産をし、実際私の姉も遠野で3人子ども産んでおりますけど、そういうことが今は全くありません。

市では、様々な努力をしているようですが、市長の産婦人科、小児科への招聘に対する考え方についてお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 後期計画の中に、ウィメンズ・チャイルドクリニックあります。そして、誰もがそれを求めるところです。

実際、どのようにすれば、ウィメンズ・チャイルドクリニックができるのかということを確認にしなければいけない。じゃないと計画にも、どういう計画にするかということが出ていかない。予算立てもできない。こういうことです。

（発言する者あり）

○市長（多田一彦君） はい。

（発言する者あり）

○市長（多田一彦君） 分かりました、分かりました。今、そこにいきます。ということは、テーブルにのせるための要素をしっかり集めなければいけない。

例えば、ウィメンズ・チャイルドクリニックであっても、私が調べておいて、今、職員にも調べてもらったりしている中で、産科の、要するに婦人科の先生が3人要ります、最低。婦人科だけでは駄目で、小児科も3人要ります。つまり6人の医師が必要になってきます。給料が

お一人2,000万から3,000万。3,000万だとすると、給料だけで1億8,000万必要になります。どのぐらいの人が出産してくれるのか。看護師さん、それと施設維持、どう見ても2億5,000万ぐらいのお金は毎年そのためにつくらなければいけないというのが、大体、条件ですね。

これを、産科ということプラスにすると花巻市で今考えている産科、産婦人科、それとチャイルドクリニック、これは10人、10人だそうです。産婦人科医師が10人、小児科医師が10人じゃないとやれないと。奥州市で6人、6人だそうです。これを今、県とお願いしたりいろいろしているということころです。

現在は、周産期医療、周産期のその安全性、これをどうするかっていうところになっているので、そこがしっかりしているところじゃないと出産が難しいと。低体重の出生の例が増えている。割合的には約1割の出生はそういうふうになっています。ということ考えると、遠野が出産をする、準備する力あるだろうか。だとしたら、私は、周産期に、周産期医療センターに近いところになるべく早く行って宿泊できる、もしくはその移動を安全にする。そして産前、その産後、周産期はもう当然病院のところです。そこにしっかりしたケアのところでないといけないとだめだろうと思っています。

ですから、遠野が準備できるとすれば、婦人科、小児科、それと産前産後ケア。これが、今の状態の遠野が、どういうふうにしてそのお金をそこにつくって臨んでいくか。

医師は、何人かのいろいろ協力的な先生もいらっしゃると思いますので、頼るということは当然必要ですけども、その先生方だけでは足りない。募集して集めないと絶対にできないということころです。

ですから、遠野が一番やれること、産科以外、出産以外のところで、どう手厚くするかというのが今のことで、今、要するにアフター、要するに産後ケアのところ、あえりあで宿泊じゃないですけども、デイサービスみたいにする部分も出てきたり、4回まで使えるんですけど、

様々なサービスを重ねていくと、今できることはそれです。産を目指すのかどうかというのは、大きな問題ですよ。

それと、デジタル田園都市構想の中では、その出産に関する部分も集約していくというふうになっていくと考えられています。中部病院、岩手県、全てそういうふうに先導しています。

自分たちがどういうふうにしていくか。どういうふう安全に出産して育てていくかというところを考えなければいけない。そういうふうに思っています。

産の部分は、恐らく遠野で産を入れていくと、奥州市同様、少なくとも6人の産婦人科の先生、6人の小児科の先生、これを雇用しなければいけません。その条件はあります。こういう状態です。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） いま、しゃべったのは本当のことだと思います。ですから遠野はできませんという結果になるわけですから。

やはり、産婦人科はかつていっぱいあった。そして、私は産婆さんが来て産まれましたけども。過去にはそういうこともあったと。ただ、今、1人ではできない。そして、24時間体制でやらなきゃならない。リスクが高い。そういうことが、多分許されない世界になってきて対応しかねるということだろうと思います。

将来的に見て、盛岡とか北上、花巻、ああいふところは、個人病院もあります。婦人科出産もできます。

やはり、今の市長そんなになっただけで諦めることなく、私は、医師確保については以前にもいろいろと一般質問しましたけれども、それは、結局は20年以上前です、私提言したのは。

これは、遠野出身とか、そういう遠野に興味ある人とか、そういった方々に医科大学とか、そういうところの授業料とかそういったもの全部市で賄って、確実に遠野に就職といいますか、そうやって、例えば5年に1人ずつ増えたとしても、それは大きな遠野市の戦力になりますよ。

遠野は離れています。釜石に行くにも花巻でも。いくら高速があっても。今はヘリで対応するっていうことになるかもしれませんが、やはり、今後のことを考えると、じっくりと考えて、そんなに最初から私は諦めるべきものじゃないと、私は思いますけども、もう一度お伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

予定の時間過ぎておりますので、よろしくお願ひします。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） はい、分かっていますよ。

諦めているわけじゃないんです。実態、現状はこうですと。こういうことをまず認識していただいた上で、計画ってものをチャレンジしていかなきゃいけないと思っています。

方法としては、例えば市の負担はこのぐらいしますから、岩手県の県立病院の、今沿岸にもたくさんあります。これは将来どうなるんですかと。遠野は防災拠点でもあって、エネルギー拠点でもあったとすれば、その県立病院を集約するときは遠野がいいんじゃないですか。だとすれば、遠野はこのぐらいの負担をしますから、産婦人科を一緒につくりませんかという方法もあると思うんです。

そうすると病院の建物もあるし、看護師さんたちもあるし。じゃあ、遠野の負担というのは、今私が申し上げたよりもぐっと少なくなるかもしれない。こういうこともあります。今議員おっしゃったように、遠野市の出身のお医者さんたち結構いらっしゃいますので、その方たちに、それこそ、永遠のふるさと遠野として考えていただくというようなこともあると思います。ですから、私が申し上げたのは、こういう状態の中で、こういう条件の中で簡単にやるやるとは、書くのは簡単ですけどできませんよって話で、それを皆さんに分かっていただいた上で、それは挑戦していかなきゃいけないっていう考え方で申し上げました。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 一般的な話は、子どもが少なくなってきましたから、それで採算取れるとか儲かるってことじゃないと。しかし、日本といますか、人間の生きていく一生の中で、自分の子どもをつくり、あるいは孫ができる。そういった一つのサイクルの中で、絶対これは必要なんですよ。

私は、これを一つやっただけでも、逆に、遠野の人口なりそういったものが増えてくる可能性もある。そして、さっき言ったように誘致工場も来る可能性もいっぱい出てきています。そういったところをぜひですね、今後努力をしながら、一発で諦めるのではなくて、ぜひ確保に向かって突き進むというのを期待しているところでございます。

もう一つ、先ほど、当然これは岩手県の医療局というんですか、そういう方針があって、岩手県をブロックに分けて、こっちはこっちだよと、まあ、それはそれで理想かもしれませんが。例えば市長のすばらしい国際感覚の下で、台湾だって中国だってそういったところだって手を伸ばしながら、遠野市の永遠のふるさをつくつるために、そういう情熱というものを私は持ってもいいんじゃないかなと思いますけど、もう一度その辺について伺っておりますけども。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） それもあると思います。

ネパールで、一人天才的な女の子がいて、貧乏で中学校に上がれないということだったんですけど、中学校に行かせています。そして、その後、医者か弁護士に、本人もなりたいたいということなんで、それをサポートしようとして今しています。

震災後、ワールドテレメディスンというのをつくりました。ネパールの貧しい村、無医地区なんで、これ、世界中の医者からインターネットつないで診断してもらおうというのをやって、今もやっています。そのシステムでやっている

ところあります。ですから、当然インターナショナルに考えていかなければいけないことだと思います。

私も出産、非常にこだわります。それこそ私の長男も産まれた次の日、まあ、駄目だったんですね。それこそ周産期のときに亡くなりました。原因分からないということだったんで、これほんとに元気だったのになつていう、そういう親、いっぱいいると思うんですね。そこはやっぱり慎重に考えて大事にしていかなければいけないと思っています。ですから、前向きにしっかり取り組みます。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 最後の、前向きに取り組むということに期待いたしまして、私の一般質問を終了させていただきます。

○議長（浅沼幸雄君） これにて一般質問を終了いたします。

---

## 日程第2 議案第37号令和4年度遠野市 一般会計補正予算（第2号）

○議長（浅沼幸雄君） 次に、日程第2、議案第37号令和4年度一般会計補正予算（第2号）についてを議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。鈴木副市長。

〔副市長鈴木惣喜君登壇〕

○副市長（鈴木惣喜君） 命によりまして、令和4年6月遠野市議会定例会に追加して提出しました議案第37号令和4年度遠野市一般会計補正予算（第2号）について御説明いたします。

本案は、第1条歳入歳出予算の補正により、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2億2,647万1,000円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ180億7,012万7,000円としようとするものであります。

この補正予算は、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、食費等の物価高騰に係る影響を受ける子育て世帯を支援する子育て世帯臨時特別支援金給付事業費をはじめ、新型コ

コロナウイルス感染症対策に関する事業費の予算について補正しようとするものであります。

以上で説明を終わります。よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（浅沼幸雄君） これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（浅沼幸雄君） 質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第37号令和4年度一般会計補正予算（第2号）については、予算等審査特別委員会に付託の上、審査することにいたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（浅沼幸雄君） 御異議なしと認めます。よって、議案第37号令和4年度一般会計補正予算（第2号）については、予算等審査特別委員会に付託の上審査することに決しました。

お諮りいたします。6月16日は、委員会審査のため休会いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（浅沼幸雄君） 御異議なしと認めます。よって、6月16日は休会することに決しました。

以上で、本日の日程…

（「議事進行」と呼ぶ者あり）

○議長（浅沼幸雄君） 議事進行、小松正真君。

○1番（小松正真君） 昨日の一般質問、瀧本議員の一般質問の中で、市長に対して、資質に疑問を感じるなのか、資質がないというふうに発言をされていました。議長は、この件に関していかが取り計らうおつもりでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） ただ今の小松正真議員の質問に対してお答えいたします。

昨日の瀧本孝一の発言は、資質に疑問を生ずるという言い方でしたので、言い切っておりませんので、そこまでの判断には至らなかつた…昨日の瀧本議員の質問は、首長としての資質に疑問を抱かざるを得ませんというふうな言い方でしたので、言い切っておりませんでしたので、

その部分については削除という判断には至らなかつたというふうに考えております。

小松正真議員。

○1番（小松正真君） 分かりました。

疑念を抱かざるを得ないということで、言い切っていないということなんですけれども、過去に瀧本議員は本会議場で、謝罪の上訂正というふうな事例がありました。私は、議員としての資質に疑問を感じる場所ですけれども、議長はいかがお考えでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） これは、それぞれの考え方があってと思います。

ただいま発言した小松正真議員の考え方を私は否定はいたしません感同もいたしません。

私は、その都度都度それぞれの議員が本会議場で自分の意見を述べる。その述べている最中に行き過ぎの発言もあることは、これは、私も含めてどなたの議員もあることではあると思っておりますけれども、そのときには、やっぱり、周りの方々から議事進行、あるいは本人が気づいたときには直すということで進めていっていただきたいというふうに思います。

小松正真議員。

○1番（小松正真君） すみません。最後にしたいと思うんですけれども、もちろん我々議員側から議事進行をかけて訂正するってことは、これ必要なことだと思います。議長も、ぜひ進行役として中立な進行と正しい進行、これを心がけて、ぜひ議員の発言、しっかり注意をして、議長のところでは止めるところは止める、これをしっかりやっていただきたいと思っておりますがいかがでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） それに関しましては、常に心がけております。ただし、私の力の及ばざるところもあると思っておりますので、そこは17名の議員の方々に補っていただきたいと思っております。

そのほかございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

散 会

○議長（浅沼幸雄君） それでは、以上で本日

の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。御苦勞さま  
でした。

午前11時16分 散会